

あかねだより



小西 あかね (こにし あかね)
ソチ五輪アイスホッケー女子(ゴールキーパー) 出場経験者
2015年アイスホッケー女子日本代表候補選手
SEIBUプリンセスラビッツ 所属
株式会社 久慈設計東京支社 営業企画部 所属

経済同友会の広報誌「経済同友」(月刊)の2015年6月号で 「アスナビ(アスリートナビゲーション)」の採用事例として、社長と小西が掲載されました!!

■採用実績事例紹介

アスリートの採用で 社員がスクラムを組んだ

久慈設計

岩手県盛岡市に本社を置き、庁舎や学校、高齢者施設など公共施設を中心とした建設設計を手掛ける久慈設計は2014年4月、アイスホッケーの小西あかね選手を採用した。

その前年、アスナビを通じ、当時まだ高校生でオリンピック強化選手だった小西選手を紹介された久慈電也取締役社長は、彼女を会社に招いた。

「非常に明るく元気で、はつらつとしていた。バイタリティにあふれ、頼もしく思えた」。そう彼女の印象を語る久慈社長は、すぐに内定を出した。すると間もなく、小西選手のソチ・オリンピック出場が決定した。

これを機に、社員らが率先して激励金を集める活動を始めたという。「アスリートが一人いるだけで、社員一同がスクラムを組むほど会社の雰囲気変わった」と久慈社長は話す。

小西選手は東京支社営業企画部に配属された。給与体系は東京支社で採用する事務職と同じ基準だという。

また、ソチ・オリンピック出場や所属チーム「SEIBUプリンセスラビッツ」での活躍、合宿の様子など、小西選手の近況を報告するニュースレター「あかねだより」を発行した。社員のみならず営業先への広報としても活用し、認知度も上がっているようだ。実際に、顧客の好感度も高く、収益向上

につながっているという。

久慈社長はアスリートの採用について、「企業にとってもプラス面はさまざまなものがある。特に、岩手県の企業としては、東日本大震災の被災者の夢と希望にもつながるのではと考えている。このような地域にアスリートをサポートできる企業がある、ということをご皆さんに理解していただけるだけでもありがたい。トップ・アスリートによって私たちが勇気付けられている」と実感を語り、「アスリートの就職に向けて、皆さんの温かい理解を賜りたい」と支援を呼び掛けた。

入社一年目を迎えた小西選手は、「私が会社にいることを、社員の皆さんが誇りに思ってくださっている。今はけがをしているが、しっかりとけがを治して、これからも「あかねだより」をたくさん発行できるよう、頑張っていきたい」と意気込みを語った。



久慈電也取締役社長と小西あかね選手

掲載紙面



経済同友会の広報誌「経済同友」

トップ・アスリートと企業とがWin-Winの関係に

福井烈JOC理事・選手強化本部副本部長は「アスナビはアスリートと企業の皆さんとがWin-Winの関係をつくることだ」と、その目的を説き、採用実績のある企業の規模や雇用形態などを報告した。また「アスリートは企業戦士としてトップを目指す担い手になる。社員の皆さんが同じ職場の仲間としてアスリートを応援することによって、会社の団結力を高める効果も期待できる」とメリットを述べ、支援を訴えた。

採用企業の活動とメリット

- ・グローバル企業にとっては、日本国内のみならず、グローバル拠点を含めた社員の一体感の醸成に役立つ。
- ・競技を通じた諦めない心、世界へ挑戦し続ける姿勢が社風づくりに影響する。
- ・所属企業として、メディアへの露出により高い広告効果を生む。

■採用実績事例紹介

アスリートの採用で社員がスクラムを組んだ

久慈設計

岩手県盛岡市に本社を置き、庁舎や学校、高齢者施設など公共施設を中心とした建設設計を手掛ける久慈設計は2014年4月、アイスホッケーの小西あかね選手を採用した。

その前年、アスナビを通じ、当時まだ高校生でオリンピック強化選手だった小西選手を紹介された久慈竜也取締役社長は、彼女を会社に招いた。

「非常に明るく元気で、はつらつとしていた。バイタリティにあふれ、頼もしく思えた」。そう彼女の印象を語る久慈社長は、すぐに内定を出した。すると間もなく、小西選手のソチ・オリンピック出場が決定した。

これを機に、社員らが率先して激励金を集める活動を始めたという。「アスリートが一人いるだけで、社員一同がスクラムを組むほど会社の雰囲気が変わった」と久慈社長は話す。

小西選手は東京支社営業企画部に配属された。給与体系は東京支社で採用する事務職と同じ基準だという。

また、ソチ・オリンピック出場や所属チーム「SEIBUプリンセスラビッツ」での活躍、合宿の様子など、小西選手の近況を報告するニュースレター『あかねだより』を発行した。社員のみならず営業先への広報としても活用し、認知度も上がっているようだ。実際に、顧客の好感度も高く、収益向上

につながっているという。

久慈社長はアスリートの採用について、「企業にとってのプラス面はさまざまなものがある。特に、岩手県の企業としては、東日本大震災の被災者の夢と希望にもつながるのではと考えている。このような地域にアスリートをサポートできる企業がある、ということを皆さんに理解していただけるだけでもありがたい。トップ・アスリートによって私たちも勇気付けられている」と実感を語り、「アスリートの就職に向けて、皆さんの温かい理解を賜りたい」と支援を呼び掛けた。

入社一年目を迎えた小西選手は、「私が会社にいることを、社員の皆さんが誇りに思ってくださっている。今はけがをしているが、しっかりとけがを治して、これからも『あかねだより』をたくさん発行できるように、頑張っていきたい」と意気込みを語った。



久慈竜也取締役社長と小西あかね選手

トップ・アスリートによるプレゼンテーション

(2015年3月18日現在)



押切 雄大

水泳・競泳

21歳。競泳200m平泳ぎ日本代表。
2016年日本大学卒業見込み。

5歳から水泳競技を続けてきましたが、中学・高校では思うような成績を残せませんでした。しかし、現在の指導者から、自ら考えて成果を出すという自主性を重んじた練習法を与えられ、成績が伸びるようになりました。さらに高いステージを

目指し、質の高い厳しい練習を自らに課してきました。そして大学三年で迎えた日本選手権では多くの強豪選手に競り勝ち、パンパシフィック大会の代表となりました。昨年の世界短水路選手権では6位に入賞し、世界で闘う自信も付きました。

就職後も高い目標を持ち、アスリートとして成果を出すことと、会社で成果を出すことの共通点を見いだしたいと思います。

小西先生、初心者にも懸命なレッスン! 埼玉県でアイスホッケー教室!



埼玉県アイスホッケー連盟と埼玉県体育協会が主催で、平成27年7月19日に「アイスホッケー教室」が開かれました。今後のアイスホッケープレイヤーの増加を目的とし、女性で中学生以上の方なら誰でも参加出来ます。今回、小西はSEIBUプリンセスラビッツのボランティアメンバーとして講師を務めさせて頂きました。参加者の方々も五輪出場経験者の小西と交流され、終始笑顔の絶えない有意義な一日となったと思います。